



保育園を通じて、大人も子どももワクワクする生活を

まみころ会（父母と職員の間）の総会が行われ、今年度の役員や事業計画、予算案が原案通り可決されました。近年、保護者会活動を縮小・廃止している園が増えている中、まつのき保育園では、積極的に保護者会活動を行っていただいています。

昨年度の親睦会の報告の中で、リース作り&ピザ作りや、BBQ、流しそうめん、お菓子まき等、子どもと一緒に楽しい企画をしていただきました。また、役員企画で保護者だけの忘年会も開催しました。

まみころ会は保育園の環境を利用して、保護者の方たちが“こんなことしてみたい”“こうしたら楽しい”と願うことを、みんなで叶える場であって欲しいと思っています。そうして、楽しい・嬉しい時間を一緒に過ごしつつ、時には悩みも打ち上げながら、仲間づくりを育んでいただきたいと思います。

また、私たちの保育は、子どもたちが自分の思いや願いを目線や指差し、言葉で表現したことを受け止め、子どもの願いに応じた保育ができるよう、乳児期から関わっています。そうした積み重ねが、4、5歳児クラスになると、話し合い活動で自分の願いを言葉で表現し、友だちの意見を聞いて、お互いの意見をすり合わせみんなで一緒に願いを叶える活動を作っています。

大人は保護者会でワクワク、子どもたちは保育でワクワク、まつのき保育園に通う人たちがワクワク楽しい気持ちで過ごせるよう、保護者会活動にご理解・ご協力お願いいたします。

こどもの育ちは、あそびと余暇から

大人が毎日、家事・仕事・育児・生活・余暇とあるように、子どもにも生活（食事、睡眠、排泄、着脱）、あそび、余暇が存在すると、私は考えます。

幼児クラスでは今年度、リズムあそびと、運動あそびが毎月の活動に入っています。私たちは、リズムも運動も「あそび」であると捉えています。「あそび」なので、できる・できないの評価も課題の無理強いもせず、時には「見る」ことも大切にしています。

あおむし（3歳児）の子がホールで行った運動あそびの時に、保育者が持つマットへ向かって真っすぐ走り、マットで子どもを挟むあそびをしていました。その姿を、さなぎ（4歳児）の子どもたちがホールの廊下で見っていました。

その後、さなぎの子たちの運動あそびを一通り行い終わろうとすると、あおむしの子どもたちがやっているのを見て、“自分もやってみたい”と思っていた子が「マットで挟むのやりたい。」と言ってきました。そこで、1人ずつ名前を呼んで、マットに向かって全力で走ってきたところをマットで挟むと、とても嬉しそうにしていました。

子どもが自分から“やってみたい”“やってみよう”と思えるには、子ども自身が考える“間”が必要です。“一呼吸置いて待つ”ことで、子どもの意欲が育っていきます。

そして、子どもたちが十分あそぶためには、余暇も必要です。余暇を通して、ゆっくり振り返ったり、考えたりすることができます。ご両親のどちらかが、お仕事がお休みの時は、ご家庭でゆっくり過ごし、心も身体もリフレッシュして、登園していただきたいと思います。

5月の目標

ひよこ … 園生活のリズムを思い出しながら安心できる大人と遊ぼう

りす … 保育者と一緒に体を動かして遊び、安心して過ごそう

うさぎ … 保育者や友だちと一緒に好きな遊びを見つけたり、自然とふれあい元気に遊ぼう

あおむし … 幼児の生活に慣れていく。保育士や友だちと生活を楽しむ

さなぎ … 安心できる環境の中で、好きなあそびを見つけてのびのびと過ごす

ちゅう … 話し合いの中で、自分の考えを伝え合っていく



